

令和7年度 国分寺市立第一中学校 学校経営計画

国分寺市立第一中学校 校長 岸 知聡

「第3次国分寺市教育ビジョン」を踏まえ、「輝く未来の創造」に向けて「豊かな心の醸成」「確かな学力の定着」「健やかな体の育成」を主な柱として、「ふるさと国分寺の自然と文化を尊重し、国際社会に貢献できる『たくましい ぶんじっ子』」の育成のために教育活動を推進する。

1 めざす学校

本校は、国分寺市の教育目標である、①互いの人格を尊重し、思いやりのある心豊かな市民の育成 ②自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな市民の育成 ③健康でたくましく、共に生きる市民の育成という基本方針に則り、徳・知・体のバランスの取れた生徒の育成ができる学校を目指す。

(1) めざす学校像

●輝く未来を創造し、国際社会に進んで貢献できる生徒が育つ学校（成長保障）

◎思いやりのある豊かな心を育み、安心して活動できる学校（居場所保障）

○個性や能力を生かし、「確かな学力」を育むことができる学校（学力保障）

○心身ともに健康で、たくましく生きる力を育むことのできる学校（健康保障）

このような学校像を実現し、持続可能な社会を支えグローバル社会を生きていく人材を育てるために、次のような生徒、教師像をめざす。

(2) めざす生徒像

ふるさと国分寺の自然と文化を尊重し、国際社会に貢献できる『たくましい ぶんじっ子』

●個性と創造力豊かな生徒

◎互いを尊重できる人間性豊かな生徒

○自ら進んで自己実現に向けて学び続けようとする生徒

○心身ともに健康で、生きがいを持ち自立できる生徒

(3) めざす教師像

◎共感する姿勢をもち生徒の健全育成に主体的に取り組むことのできる教師

（生徒に優しさ、厳しさ、感動を与えられる教師）

○創意ある教育活動の推進に意欲的に取り組むことのできる教師

（指導力向上を目指し、自ら学び続ける教師）

◎高い人権意識感覚を持ち、自ら模範となり伝えることのできる教師

（組織の一員として責任を果たせる教師）

2 教育目標

○ 自ら考え判断し行動できる人になろう

◎ 思いやりのある心豊かな人になろう

○ 心身ともに健康でたくましい人になろう

3 中期的目標と方策

(1) 豊かな心の醸成

— 人権尊重の理念を基調とした教育を推進し、互いに認め合い、思いやりのある豊かな心を育む。

- ① 国分寺学を要に全ての教育活動を通して人権教育を充実し、豊かな心を持ち知性と感性に富んだ、広く国際社会に貢献できる生徒の育成を目指す。
- ② 学級・学年経営の充実を図り、一人一人の自己肯定感を高め、生徒の自立的な成長を促す指導を推進する。
- ③ 創意ある教育活動を通して、お互いを理解し、協力し合う態度を育てる。
- ④ 「特別な教科 道徳」では、道徳教育の内容や指導法、評価を工夫・改善し、道徳の授業を要とし教育活動全体を通して規範意識、感性や優しさ、思いやりの心など豊かな心を育み、道徳性を養う。
- ⑤ 教育相談機能を高め、様々な人材を活用し、個人に必要とされる合理的な配慮を適切に提供することで特別支援教育の充実を図り、一人一人の可能性を最大限伸ばす。
- ⑥ 関係機関と積極的に連携し、いじめの根絶と不登校の減少を目指す。

(2) 確かな学力の定着

— 個性や能力を生かす「わかる授業」、「興味・関心のわく授業」の実現に努める。

- ① 授業のユニバーサルデザイン化を基本とした上で授業改善を推進し、教員の授業力を高め、小学校との連携を踏まえて各教科、領域等で主体的・対話的で深い学びの一層の充実を図ることで、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、学習意欲の向上を図る。
- ② 読書に親しみ生涯にわたる読書習慣を身に付ける取り組みを重視し、言語に関する能力を高め、豊かな「知性」や「感性」を育てる。
- ③ 数学で「東京方式 習熟度別指導ガイドライン」、英語で「東京方式 少人数・習熟度別指導ガイドライン」に基づく授業を実施し、基礎・基本の徹底を図り、興味・関心がわく「わかる授業」、「できるようになったと実感できる授業」の充実に努める。

(3) 健やかな体の育成

— 体力・運動能力の向上を図り、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送れる力を育てる。

- ① 教育活動全体を通じて運動習慣への意識を高め、運動の日常化に努め、心と身体の健康づくりと体力・運動能力向上を図る。
- ② メンタルヘルスに関する知識と対応力を向上させるための計画的な指導を実施する。
- ③ 家庭科及び栄養士と連携した食育に関する活動を推進する。

(4) 輝く未来の創造

— 上記(1)～(3)を基盤として、「一中版 国分寺学」・「一中学区版 国分寺学」を実行し、持続可能な社会を目指し、愛校心・郷土愛を育み、所属感・連帯感を養うことにより、地域との連携や社会貢献への意識を高める。

- ① 小中連携教育を核とした国分寺型コミュニティ・スクールとして、地域人材を活用しながら学校公開や地域との防災訓練の実施などを通して学校を地域に開き、保護者や地域住民の学校教育への参画を奨励し、三者一体となった教育の推進を通して、地域の中で生きる生徒を育てる。
 - ② 各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動を工夫し、他者と協働する力や自立する力を育て、社会貢献意識（ボランティアマインド）や国際理解意識の高揚を図る。
 - ③ 情報伝達の方法を工夫し、より積極的な情報発信に努め、保護者・地域に学校の様子を伝える。また、年間6回のコミュニティ・スクール協議会を機能させ、保護者や地域との連携強化を推進する。
 - ④ 自己の将来や生き方について考え、自己理解を深める体験的な進路指導を推進する。
- (5) 学校事故の防止と危機管理体制の構築
- ① 教職員が学校事故を予防する責任を自覚し、実際に即した計画的・継続的な安全指導や避難訓練等を実施することで、危機管理意識を高める。
 - ② 体罰の禁止をはじめとする服務の厳正を徹底し、教職員は自らの服務規律を遵守する。
- (6) 学校配当予算等の適切な執行と管理
- ① 予算を適正に編成し、教育活動の成果を考え計画的に執行する。
 - ② 施設・設備営繕については、国分寺市教育委員会と連携し計画的かつ迅速に実施する。
 - ③ 教材費等の私費会計については複数の職員による確認を原則とし、公明で適正な処理を行う。
- (7) 教育環境整備と環境美化の推進を主とする環境教育
- ① 教室等の物的環境の整備と美化に努める。
 - ② 環境教育を充実させ、限りある資源や持続可能な社会の在り方について考えさせる。
- (8) 部活動における健全育成の推進
- ① 部活動は、地域移行・地域連携を進めながら、教育課程との関連を踏まえ、その指導効果を認識し、全教員が協力してこれに当たることで、生徒の居場所づくりを行う。
ただし、教員の職務の増加、及びワーキングバランスを鑑み、部活動移行団体への移行が可能な種目について積極的に移行を進め、開設部活動の数を縮小していく。
 - ② 顧問の指導性を維持しながら、部活動指導員・外部指導員を有効かつ適切に活用する。
 - ③ 「国分寺市立第一中学校 部活動に関する活動方針」に則って、生徒の体力的・時間的負担を考慮した効果的・効率的な指導に努める。

4 今年度の取り組み目標と方策

(1) 豊かな心の醸成

— コロナ禍での工夫も残しながら、生徒主体の学校行事を推進し、学級での居心地感を高めることで自己肯定感を育て、いじめ根絶と不登校生徒減少に努める。

- ① 学級活動等を通して正しい自己理解を促し、自己肯定感の育成に努め、居心地の良い学級づくりを行う。
- ② 「学校いじめ防止基本方針」について全教職員で理解するとともに、「学校いじめ防止基本方針」に基づき、未然防止、早期発見など組織的な対応を徹底し、いじめ根絶を目指す。また、年間1回以上の校内研修を通して、全教職員の人権尊重意識を高め、一人一人を大切にした組織的な指導体制を確立する。
- ③ 学校生活への適応促進の手段として、安心して集団生活が送れるように、年度当初に新入生全員校長面談を実施する。また、毎学期 学校環境適応感尺度「アセス」を実施し、結果を指導に活かす。
- ④ 不登校解消のために、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、不登校対応巡回教員の協力を得ながら、教育相談活動を進めると共に、適応指導教室「トライルーム」や民生児童委員、子ども家庭支援センター、児童相談所等の関係諸機関との連携も深め適切な支援を行う。
特に、登校はできるが教室に入れない生徒に向けて開設した「サポートルーム」に不登校対応担当教員を配置し、支援員・準支援員との連絡・調整を行い、落ち着いた学習環境の整備及び、心のケアも行いながら不登校解消につなげる。
- ⑤ 虐待防止に向けて、生徒虐待防止対応担当教員を中心とした組織的な対応を充実させる。併せて、民生児童委員、子ども家庭支援センター、児童相談所等の関係諸機関との連携を強化する。
- ⑥ 校内研修を活用して発達障害等の理解を深め、個々に必要とされる合理的な配慮を適切に提供する。併せて、特別支援教育コーディネーターや教育相談推進委員会を生かし、特別な支援を必要とする生徒への指導の充実と周囲の理解深化や環境整備を図る。
- ⑦ 「特別な教科 道徳」の授業は、内容や指導法を工夫・改善し、「考える道徳」「議論する道徳」の推進を継続させ、評価法について校内研修会を活用して研修を進め、適切な評価を実現させる。
- ⑧ 令和6年度より開始した「ハートフルウィーク」を充実させながら、日頃から生徒と教師及び生徒相互の良好な関係構築に努め、人権尊重と信頼に基づく学習・生活の場を築く。そのための一環として、言語環境を整え、正しいことばづかいと挨拶ができるよう働きかけ、基本的な生活習慣の定着を図るために、定期的に学区内小学校と連携した挨拶運動、ノーチャイムによる時間を守る取組みを推進する。
- ⑨ 問題行動には、その質や程度に応じて適切に指導する。その際、迅速かつ組織的に対応するとともに、必要な情報は保護者に随時伝え、問題状況を共有しながら共に解決を図る。また、関係諸機関との連携を強化し、特に暴力行為や器物破損については社会的にも許される行為ではないことを踏まえて対応する。
- ⑩ 見えづらいインターネットを通して行われるいじめについての理解を深め、SNS 等のより適切な使い方や GIGA 端末の使用ルール、活用法について指導を行う。

(2) 確かな学力の定着

— 各教科、領域等で記録、要約、説明、発表、討論、討議などの言語活動を充実させ、主体的・対話的で深い学びの一層の充実を図り、生徒の思考力、判断力、表現力を育成する。

- ① 令和7年度研究開発委員会「デジタルを活用したこれからの学び」指定校として、GIGA スクール構想による一人一台タブレット型パソコンの効果的活用を更に進め、指導方法や評価方法を工夫する。また、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成と学習意欲の向上を図りながら、学習の個別最適化（指導の個別化、学習の個性化）と協働的な学習を推進する。
- ② 各教科等における言語活動の推進・充実に努め、習得・活用・探究という学習活動の在り方を研究し、日常的に授業改善を推進する。
- ③ 学習が遅れがちな生徒に対して、放課後、定期テスト前、長期休業期間を利用した補習、及び「寺子屋倶楽部」を活用して、基礎・基本の確実な定着を図る。
- ④ ESD及びSDGsの推進に必要な研修を積極的に進め、研究授業の実施や生徒による授業評価を通して授業力向上に努めるなど、組織的な授業改善により確かな学力の定着を目指す。
- ⑤ 年2回の生徒による授業評価の結果や、全国学力・学習状況調査等の結果分析を、授業改善推進プランに反映させ、授業改善を推進する。
- ⑥ 小学校との連携を踏まえて個に応じた指導や、ICTを活用した学習意欲を高める指導の工夫を行い、全教科で体験的な学習や、問題解決的な学習を重視する。
また、数学で「東京方式 習熟度別指導ガイドライン」、英語で「東京方式 少人数・習熟度別指導ガイドライン」に基づく授業を実施し、基礎・基本の徹底を図るとともに、発展的な学習のニーズにも応えていく。
- ⑦ 日常における読書習慣の確立に向けて、国語科の授業でのミニビブリオバトル、そして学年で、更に全校生徒でのミニビブリオバトルを実施し、読書の楽しさを伝える取り組みを推進する。
学校図書館司書の協力による図書委員会の活動等を工夫し、読書習慣の確立につなげる。
- ⑧ グローバルに活躍できる人材育成を目指して、ALTを活用した授業、TGG体験などの実践的な活動を意識的に増やし、コミュニケーション能力の向上を図る。

(3) 健やかな体の育成

— 基本的な生活習慣と結び付けた運動の日常化を推進する。

- ① 「学校 2020 レガシー」として採り入れた保健体育の授業や部活動における準備運動にゴムバンド等の用具を用いたパフォーマンスを継続させて体力向上に努め、健やかな体の育成を図る。
- ② 体育的活動や保健指導を重視するとともに、技術・家庭科や保健体育科などの教科学習とも関連させながら、食育リーダー中心に国分寺の栄養士とも連携して食育を計画的に進める。
- ③ 保健管理、安全管理を徹底し、生徒・教職員の健康の保持増進に努める。
- ④ 学校歯科医の協力を得ながら養護教諭を中心に、歯の健康に関する取組みを推進し、虫歯予防に努める。

(4) 輝く未来の創造

— 上記(1)～(3)を基盤として、「一中版 国分寺学」・「一中学区版 国分寺学」を実行し、保護者や地域と連携した多様な教育活動を行い、愛校心・郷土愛を育み、所属感・連帯感を養うことにより、進んで社会に貢献できる力と態度を育てる。

- ① 「総合的な学習の時間」を、SDGs達成を目指した全体計画の核と位置づけ、資質能力の育成に向けてまとめた「一中スタンダード」を通し、持続可能な社会に向けた学習を進める。

市総合ビジョンをSDGsに関連付けて捉えさせ、中学生の視点で街づくりの基本理念を理解するとともに具体的な方策を考え国分寺市に提言できるようにする。また、社会貢献、地域貢献への意識を持たせ、可能な範囲で地域ボランティアにも参加させるなど実際に行動を促す。

- ② 生徒会や学年、部活動などを中心に地域貢献を推進し、小学校・公民館・青少年地区委員会等でのボランティア活動をより充実させる。
- ③ 学校行事の他、年2回学校公開週間を設け、保護者、地域の多くの方に教育活動を参観していただき、教育活動に理解・協力を得られるように努める。
- ④ コミュニティ・スクール協議会を通して保護者や地域の方に、学校行事を中心に教育活動全般に協力を要請し連携を図り、地域人材を活用した多様な体験活動（「一中版HUG」等の体験的防災学習）を通して、生徒と地域住民とのつながりを深め、防災面で強い地域を実現させる。
- ⑤ 学校だより、学年だより、進路だより等の充実を図る他、ブログやホームページ、メールシステムを活用し、学校情報の積極的な発信と説明責任に努める。
- ⑥ 地域の協力を得て、2年生で2学期に3日間の職場体験、3学期に上級学校授業体験を実施するなど各学年の発達段階を踏まえた職業観・勤労観を養うとともに、キャリアパスポートを活用し将来に「夢」と「希望」を抱かせる指導を工夫する。
- ⑦ 各教科や総合的な学習の時間などを通し「東京 2025 デフリンピック」を契機として、聴覚障害への理解啓発のみならず、様々な障害についての理解啓発を推進する。
- ⑧ 教職員自らが本校を愛し、本校勤務に誇りをもつことで、学校や地域を愛する気持ちを生徒と共有する。また、本市の歴史や伝統・文化を学ぶ機会を設けるとともに、これらを教師自らが学び尊重する姿勢を示す。
- ⑨ 校歌に謳われている「むらさき草」を本校の草花と位置付け、むらさき草の花壇を整備する。

(5) 学校事故の防止と危機管理体制の構築

- ① 教職員が学校事故を予防する責任を自覚し、授業における安全対策等を週案に示すなど、危機管理意識を高めさせる。
- ② 計画的・継続的な安全指導や避難訓練、防災訓練、セーフティ教室などを実施し、生徒の安全・安心を保障する。特に防災教育を重視し、地域、消防署と協働した実践的な避難訓練や防災訓練を継続的に実施する。

- ③ 次節に応じた服務事故防止の啓発を通して、服務の厳正、服務規律の順守を徹底し、体罰、セクハラ、自動車通勤、飲酒運転、個人情報流出・紛失、その他信用失墜行為等の防止を図る。

また長期休業中や勤務時間外の服務についてもこれを遵守し、保護者や地域住民からの信頼を損なわない学校にする。

特に、生徒指導においては、威力（体罰や不適切な指導）によらない、教員の魅力による生活指導を推進する。

(6) 学校配当予算等の適正な執行と管理

- ① 予算は適正に編成し実施する。執行状況について、教職員に対して、定期的に指導する。
- ② 施設・設備営繕については、計画的かつ迅速な実施を心がける。
- ③ 教材費等の私費会計については複数の職員による確認を原則とし、公明で適正な処理を行う。そのために、定期的に管理職による校内監査を行う。

(7) 教育環境の整備と美化の推進を主とする環境教育

- ① 教室等の物的環境の整備と美化に努め、定期的に美化週間を設ける。
- ② キャリアの形成、環境問題への取り組みでは、身近な地域を素材とした学習から進め、環境教育では地域理解から国際理解へと発展させる。

(8) 部活動における健全育成の推進

- ① 部活動は、地域移行・地域連携を進めながら、教育課程との関連を踏まえ、その指導効果を認識し、全教員が協力してこれに当たり、生徒の居場所、生徒の活躍の場を確保する。
- ② 顧問の指導性を維持しながら、外部指導員を有効・適切に活用し、健全育成を図る。
- ③ 「国分寺市立第一中学校 部活動に関する活動方針」に則って、生徒の体力的・時間的負担を考慮した効果的・効率的な指導に努め、家庭・地域で活動できる時間を保証する。